

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2016.8.27)

河口無線で開催されたフューレンコーディネート主催のオクターブ新製品「RE-320」試聴会に行ってきました。

日時：8月27日 PM1:15～PM3:00

会場：3F ハイファイディリティ試聴室

講師：オーディオ評論家山本浩司氏

<使用機材>



オクターブ 管球パワーアンプ RE-320 ¥1,566,000



オクターブ 管球プリアンプ HP-700 (LINE) ¥1,836,000



リン ベルトドライブプレーヤーシステム KLIMAX LP12 ¥3,088,800

リン ネットワークプレーヤー KLIMAX DS (写真なし)



B&W スピーカーシステム 802D3 ¥3,672,000 (ペア)



当日のセッティング

<試聴経過>

最初に試聴対象のアンプの説明があり、新しいKT150という5極管を使用して130W/4Ωを叩き出すというものです。設計者のアンプ設計のコンセプトは、①Long Life、②Low Noise, Low Distortion、③Dynamic Power, High Torqueということでした。

試聴は、まずKLIMAX DSにより、ボーカルから始まりましたが、伴奏のピアノがアップライトのように聴こえました。アンプの問題ではなく、録音時のリバーブや音源フォーマットのように思われます。

次に内田光子のモーツァルトのP協がかかりましたが、やはりスタンウェイの力感が出きっておらず、オケも平板で陰影のない演奏に聴こえました。これも、アンプの問題ではなく、音源フォーマットや再生系のアンプの前までのステージの問題ではないかと思われます。当日のネットワーク構成はBuffaloのNASから読み出し、ルーターを経てKLIMAX DSに入力されており、フォーマットの説明はありませんでしたが、96KHzFLACあたりではないかと思われます。NASの選択やLANケーブルの選択で改善の余地がありそうに感じました。

ここで、KLIMAX LP12 によるアナログ再生に移り、最初にハリー・ベラフォンテのカーネギーホールライブ、ついで歌謡曲がかかりました。さすがに KLIMAX LP12 のパフォーマンスは素晴らしいものがありました。さすがに KLIMAX LP12 のパフォーマンスは素晴らしいものがありました。さすがに KLIMAX LP12 のパフォーマンスは素晴らしいものがありました。さすがに KLIMAX LP12 のパフォーマンスは素晴らしいものがありました。もう少しディテールの再現が欲しい感じがしました。

この段階で、アンプの真価を確認することができないまま、次の予定があつて中座しましたが、真空管で 130W というパワーは類をみないアンプと言えます。